

「変わってしまう」怖さ?!

四国情報通信懇談会

副会長 島村 和典



情報通信の世界では、ICTの新しい動向が多くの新語とともに話題になります。最近ではどんな言葉でしょうか。UX、Social media、Digital signage、Social Game、グロスマ、PaaSなどはその一部の例でしょう。その新語たちはいつも、登場の度に、世の中が「変わる」、生活が「変わる」、ビジネスを「変える」、コミュニケーションが「変わる」、価値観が「変わる」、世界が「変わる」などの扇情表現を引き連れてきます。

こういう「変わっていってしまう!」との表現は、私などを、不安におののかせてしまいます。初めて聞いて知らなかった場合はなおさらです。「ICTの時代」とも呼ばれる最近、同時に、この恐怖と不安を扇情する時代のようにも思えてなりません。

しかし、ビジネスの前線でご活躍の四情懇の会員の皆様はそれほど驚かれてはきていないのではと拝察いたしております。本当に支持され、社会に浸透してくる新技術は、実は、現れてから少しずつその比重を増してきます。ビジネス現場では、こういう新語、新概念に接せられるのに決して唐突さはないことでしょう。それでも、直接密でない分野の新語を正しく理解していくには多くの良い仲間の知が役立つはずで、この懇談会がそういう効能も発揮する場になるよう、微力ながらお手伝いできればと願っております。

前月号の誌面で田崎会長が新しいコミュニケーションの到来にも触れておられました。スマホとクラウドサービスの浸透は静かに、かつ急激な速さで通信をRCSへと変貌させているように思えます。クラウドの浸透は「Sierは旧業態になる」との扇情表現を引き連れています。しかし、SaaS、PaaS、IaaSがごく少ない投資で利用できるならば、四国に拠点をおかれる皆様にも良いビジネス基盤になるかもしれません。教育機関に身をおく者もこれらを研究基盤として利用する比率を上げていこうと考えております。

「変わってしまう」恐怖に怯えず、自分から進んで「変える」姿勢になれば、もうICTの新語に扇情されにくくなるかもと考えている昨今でございます。